

指静脈認証を全面導入

大 静



指先の静脈データを登録する作業は1人当たり1～2分（静岡市）

静岡大学は指の静脈を活用した個人認証システムを全面導入する。施設の入退室管理や情報システムへのログインなど、原則すべての認証に使用する。これまでキャンパスや部局が異なる認証手法も異なり、学生や教職員は複数のパスワードを覚える必要などがあった。高精度の指静脈で一元化することで、事務作業の効率化とセキュリティ強化を両立する。

入退室管理や端末ログイン

学内統一、2万人対象

指静脈の形状で個人を特定する手法は産業界で

徐々に広がっているが、組織全体の認証を指静脈で統一するのは珍しい。情報管理だけでなく、認証結果を教職員の出勤管理や学生の授業の出席確認などにも活用する。システムはNTT西日本、伊藤忠テクノソリューションズ(CTC)、生体認証技術のフィット・デザイン・システム(東京都八王子市)と開発した。利用人員は学生や教職員、大学関係者など2万人に及ぶ。

システムの本格運用に向けて、2万人の指の静脈を読み取る作業を始めた。このほど静岡キャンパス(静岡市)に人力装置を導入。近く浜松キャンパス(浜松市)にも導入し今秋にも完了させる。データは専用サーバーと学生などが携帯するカードに登録される。データを登録すると、校舎などの出入り口に設置した認証装置に指かカードをかざすだけで電子キーを解錠できる。静岡キャンパスに先行して10台程度配置し、業務に支障がないことを確認した。装置設置には1カ所30万円かかる。重要データを保存する数十の主要施設には来春までに導入し、数年かけて数百カ所配置する方針だ。

パソコンで大学の情報システムを利用する場合にも活用する。主要な校舎に自動パスワード発行装置を設置。同装置に指とカードをかざすと期間限定のパスワードが発行され、授業などで使用する端末の画面に入力すればログインできる体制にする。

これまで学内の個人認証は統一されておらず、静岡大情報基盤センターによると、10枚以上の入館カードを持ち歩く教職員もいた。複数のパスワードを記憶する必要があり、書き留めた紙をなくす問題なども指摘されていたという。